



地域に貢献できる認定看護管理者に！

しげい病院 看護部長 森上 由美子



この度、日本看護協会認定看護管理者の認定審査に合格し、先日認定証が届きました。認定看護管理者は、多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することにより、保健医療福祉に貢献することを目的としています。2021年3月時点で、全国の登録者数は4,562名、岡山県内では57名です。認定看護管理者の受験資格要件はいくつかありますが、そのうちのひとつとなる認定看護管理者教育課程サードレベル研修を、岡山県看護協会で2019年8月末から10月で183時間受講しました。受講者は岡山県内のみならず、兵庫県・島根県・高知県からも参加していました。12名と少数でしたが、成人の学習者として学ぶことの楽しさと、事業計画の立案など新たな価値を見出し創造する過程も経験しました。

この研修では、私たちが看護管理者として実践してきた「経験知」を、言葉や数値化して伝える「形式知」にすることをひたすら学びました。熱意を持ち、取り組みたい課題を可視化する仲間にとっても刺激を受けました。私が取り組んだ事業計画のテーマは「人的資源の活用で地域の透析予防医療に貢献」でした。計画研修終了後、しげい病院CKD外来と回復期リハビリテーション病棟の

協働に活かされています。

研修後、認定資格審査は2020年5月に全国5都市で開催される予定でした。私たちも大阪会場で受験する準備を進めていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大と重なり、2020年11月に都道府県単位での開催に変更されました。研修を受講した仲間とは会うこともできず、帰宅後や休日にSNSで情報交換しながら学習を進めました。審査は四肢択一の一般問題が20問、論述問題が2問でした。論述は会場で手書きとなるため、想定されるテーマを時間内に誤字・脱字なく書くアナログな作業もトレーニングしました。使いやすい消しゴムを探したことも良い思い出です。

時代の変化とともに看護管理者にもスピード感のある意思決定や多様な考えを受け入れる柔軟な思考がより求められていると感じます。2020年は新型コロナウイルスの流行で世界が大きく変化しました。病院の中で当たり前に行われていたことができなくなり、まさにチャレンジの一年でした。有元院長が年頭に話された、グレート・リセット（世界の大転換）の波に乗り遅れることなく、地域で必要とされる医療が絶え間なく提供できるよう努力してまいります。

3.11 災害対応訓練を実施

3月11日は東日本大震災から丸10年となる日でした。研究所附属病院ではBCP（業務継続計画）の策定に取り組んでおり、まだまだ完成と言えるものではありませんが、現段階のBCPやアクションカードが実行可能なものか検証し見直す目的で、休診日である木曜日を利用してこの日に訓練を実施しました。今回は休日に発生した大地震による

停電を想定。入院棟1階と外来棟3階の2病棟、外来、血液浄化療法センターと臨床工学部、栄養管理部そして災害対策本部を舞台に、訓練のための出勤者45名をはじめ当日勤務の傍ら一部の時間に関わった職員を含め計60名以上が参加。朝から夕方までかけて発災時から初動フェーズ終了までの訓練を行いました。

■緊張感のある訓練…明確になった課題を今後の改善に

8時53分に地震の揺れを思わせる院内放送が鳴り響き、いつもと違う緊張感と異様な雰囲気の中、訓練が始まりました。

発災時、スタッフは院内放送が終わるまで、その場を動かず自分の身を守り、院内放送が終わると、すぐにリーダーの招集合図と同時にスタッフが病棟マップの前に集合。リーダーは職員の安否を確認しつつ、アクションカードを配りながら指示を出していました。スタッフは患者さんの安否と設備の安全確認・報告を行い、医療機器やベッドリモコンを非常電源に切り替え、患者さんのケアを継続しました。また、災害対策本部から安否確認メールの返信内容が報告され、当日の夜勤や明日以降の勤務シフトの調整を行いました。

私は、評価者として参加し、評価表をもとに病棟の



▲病棟スタッフが患者さんの安全を確認

動きを観察しました。初動の内容に沿った動きはできていましたが、アクションカードに記載されている細かい対応や被災状況を記入する用紙の活用ができていない等、アクションカードが上手く活用できていない現状がありました。アクションカードの工夫とともに日々の業務の中で初動の対応や報告方法を個々が把握しておく必要があり、各部署で訓練を積み重ねていくことが今後の課題であると感じました。

私はこの一年間、災害対策委員会のメンバーの一員としてBCP策定に携わり、また看護部のBCPチームとも幾度となく話し合いを重ねてきました。そして実際に今回の訓練を実施し、課題がより明確化したので、今後の対策改善に役立てていきたいと思います。



▲病棟スタッフは病棟マップの前に集合

■給食を途切れることなく提供する使命…訓練をしてこそ見えてきた課題

発災の放送とともに、栄養管理部でも各自が身を守る姿勢を取り、緊張感を持って訓練が始まりました。

まずは勤務職員の安全確認、厨房内の被害状況の把握・ライフライン（電気・ガス・水道）の確認、

食事の配膳ルートを確認します。そして、停電しガスも使用できない状況下で備蓄食品を活用した食事提供を決定し、入院患者に確実に提供するための最新の情報を得るため、病棟の赤コンパソコンを使用して食札や濃厚流動食の一覧を発行しま

研究所附属病院 栄養管理部 副室長 多田 仁美

した。患者記名を階ごとに作成して配膳の準備を進め、災害対策本部に連絡し応援を得て病棟に非常食を運びました。

病棟では、患者さんに提供する予定のマジックライス・カレー・シチューの試食をした職員が味や硬さの評価し、形態の簡素化など今後の課題も見えてきました。これまで災害時用の非常食の備蓄はしていたものの実際の提供手順を想定したシミュレーションはしていませんでしたが、今回は様々な運用手順を検討し、備品も整備することができました。また、安否確認システムの回答情報に応じた勤務調整も行いました。

実際に訓練で行動をとったときの心境を大切にとどめて、行動を振り返り、未来へ生かそうと思います。命を繋ぐ給食を1日も途切れることなく提供することは、私たちの使命です。今できること、何をすべきかを考えながら不確実な状況下での決断をしていかなければなりません。



▲非常食を病棟スタッフに手渡す栄養管理部の職員(右)

■停電の際も非常電源で透析を安全に続行、病棟の医療機器の安全も確認

研究所附属病院 臨床工学部 副技士長 畑 綾子

訓練の当日8時53分の発災時、血液浄化療法センターでは16名の治療が開始されていました。「揺れが収まるまで動かないで、布団を被って!」と患者さんへの声かけ後、アクションカードに基づき対応が始まりました。



▲アクションカードに基づき対応

透析機械室の状況や患者監視装置・配管水漏れ、患者状況を医師へ報告し、停電のため非常電源下での透析続行の指示が出ました。医師の指示を各スタッフへ伝達すると同時に、コーナー担当スタッフは避難に備えた透析離脱セットの準備など、各々が速やかに対応。9時40分頃には責任者が駆け付け、責任者代行スタッフからホワイトボードに掲示された情報を基に引継ぎが行われました。

臨床工学部では透析関連機器のほか、人工呼吸器およびセントラルモニタなど各病棟で使っている医療機器確認のため、入院棟・外来棟に分かれてラウンドを行いました。そして15時前に通常電源が復旧した後は、透析・医療機器ともに各装置と機器の安全点検を実施しました。

今回の訓練では気持ちの焦りからか、普段行っている事でもうまいかないこともあり、防災訓練の重要性を痛感しました。災害が大きいほどチームワークや他部署との連携を図ることが重要であり、そのためにはにも普段からのコミュニケーションや災害を意識した行動を心掛けていきたいと思います。



▲通常電力が回復後に各装置・機器の安全点検

■外来で負傷者発生!…実際の災害時にも冷静に対応したい

研究所附属病院 看護部 課長 松崎 敬代

外来を受診していた患者さんが発災時に転倒し骨折した想定で、訓練を実施しました。診察の結果入院が必要と判断され、緊急入院となりました。停電している設定のためエレベーターが使用できず担架で2階へ運び、ストレッチャーへ移動し2階病棟へ入院しました。看護師4人で女性を搬送しましたが思ったよりも重く感じ、階段を上がる事が大変難しく、骨折の設定にもかかわらず足が

床についてしまい、患者さんの安楽を考えた搬送はできませんでした。なかには実際に搬送したことのない



▲外来を受診していた患者さんが転倒

スタッフもあり、固定方法や、持ち方など正しい搬送方法をきちんと学習しておくことも課題の1つとなりました。

対策本部や病棟との連携はスムーズに運びましたが、応援を依頼する段階で患者さんの体格や病状も考慮し、人数を伝えるだけでなく、男性の応援がほしいなど状況に合わせた内容を伝えることも大切だと感じました。私自身は患者役も並行して行い、車いすで診察室まで運ばれました。訓練とはいえ暗い診察室にいるのは不安な気持ちになりましたが、看護師が確認作業に出ている間、応援で他のスタッフが交代してくれ、声を掛けてもらうことで安心できました。

事前にシナリオ設定していたことと対応人数が1人と限定していたこともあり、救護から入院ま

でスムーズに行えましたが、実際に災害が起こった場合に他の患者対応も行いつつ負傷者の対応となると、状況を冷静に判断し指示がだせるだろうかと不安を感じました。訓練を行ったことで、新たな課題も見つかり、再度マニュアルの修正や、スタッフへの教育、訓練を重ね、実際の災害時に冷静に対応できるようにしていきたいです。



▲患者さんをタンカで運ぶ様子

■災害対策本部 怒涛の一日…多くの気づきを得た訓練

研究所附属病院 事務部長 由比濱 恒明

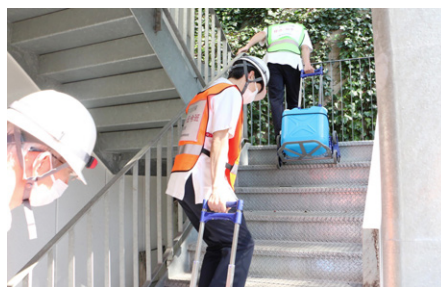
自宅にいた私が安否確認システムによる緊急招集通知を受けて災害対策本部に駆け付けた時には、既に院長をはじめ病院幹部・総務課・医事課・リハビリ部などの対策本部メンバーがいち早く緊急登院して集結し、各部署から被災状況の報告が集まってきていました。そして、被災箇所への対応を指示し、EMIS（広域災害救急医療情報システム）等への入力、自院ホームページの書き換えによる情報発信などを次々に行い、密度の濃い一日が始まりました。

その後も患者さんの移送や病棟への昼食の運搬など院内応援の調整や、院内にいる職員への非常食の配布、また安否確認システム集計結果の各部署への報告、各部署からの依頼により同システムでの職員への呼び出しの発信と目まぐるしく続きます。さらには、非常電源の稼働時間を延ばすために、燃料（今回は代わりに水）をポリタンクに入れて発電機のある屋上まで皆で協力して人力で運搬するという体力勝負のミッションまであり、くたくたになりました。

今回の訓練では、非常時の災害対策本部による情報の一元管

理と指揮系統の一本化の重要性を再認識しました。また、対策本部内でも失敗や想定外の事態が生じ、様々な具体的な気づきも得られました。

訓練全体を通じて印象的だったのは、各部署で多くの職員が本当に真剣に訓練に取り組み、さまざまな気づきや多くの改善提案を報告してくれたことです。今後さらにBCPやアクションカードの精度を上げ、来るべき実際の災害時に機能するものにしていきたいと思います。



▲ポリタンクを皆で協力して屋上まで運搬



▲災害対策本部で情報共有



▲被災状況が次々とホワイトボードに書き込まれていきます

番号表示システムを 入れ替えました

しげい病院 薬剤部 薬局長 佐々木 緑

業務改善のために番号表示システムを入れ替えました。電子カルテ側へ新しいシステムを導入することにより、お薬引き換え管理画面から「処方監査待ち件数」「調剤待ち件数」「入金済薬待ち患者数」の業務状況一覧が表示できるようになり、状況を把握できるようになりました。

合わせて、薬局前の待合スペースにある薬の準備ができた方のお薬引換券の番号が表示されるモニターの表示が新しくなりました。

手順も変わり、薬が準備完了となった時点で処方箋に今回から追加印字されたバーコードを読み取ることで、モニターに番号表示されるようになりました。モニターへは準備ができた薬の番号と一緒に、入金から呼び出し（番号表示）までにかかった時間の中央値を「待ち時間約〇〇分」と表示できるようになりました。また、処方日数が長期、調剤の手技を要する（錠剤の分割や粉碎、軟膏の混合など）、処方内容に疑問点があった際の医師への問い合わせ、などの理由で待ち時間が長くなる方には「右のお薬番号はお時間がかかります」と遅延の案内表示もできるようになりました。患者さんには薬待ち状況を把握して安心して順番待ちをしていただくことができ、また待ち時間の



▲総合受付横の薬局前のモニター

有効活用に繋がります。

薬の引き換え時にはお薬引換券に印刷されたバーコードと窓口対応した薬剤師の職員番号を読み込む際に他のお薬番号、残置薬がある場合には通知アラートが表示されるようになり、薬の渡し忘れ防止にも役立ちます。

画面レイアウト作成時には、色の見え方はすべての人にとって同じとは限らず、「赤と緑」「茶と緑」などの隣り合った色が見分けにくいことから、使用するモニター画面のデザインを決める際には様々な色覚特性に配慮しました。

調剤待ち時間などのデータが取れるようになったため、外来の待ち時間調査にも役立てていきたいと考えています。今後も患者満足度向上に向けて様々な取り組みを行ってまいります。

最後に、システム導入に際してご協力いただいたIT推進・情報管理室の皆さまありがとうございました。

はあもにい倉敷フィットネスホームページがリニューアルしました！

はあもにい倉敷 フィットネスチーム 坂本 佳苗

4月の新しい期に向けて、はあもにい倉敷フィットネスのホームページをリニューアルしました。リニューアルにあたり、今回はモデルさんとプロのカメラマンにお願いし、本格的な写真撮影を行いました。

撮影当日、モデルさんの“さすがプロ！”という雰囲気に圧倒されながら撮影がスタート。初めての撮影で、スタッフは最初は緊張していましたが、カメラマンさんの“笑顔がいいですね！”などの声掛けににだいに緊張もほぐれ、和やかな空気で撮影を進めていくことができました。



はあもにい倉敷フィットネスらしさが伝わる写真がたくさん撮れ、ホームページも心機一転リニューアルしておりますのでぜひご覧ください。

また、「4月・5月限定 1000円引きキャンペーン」も実施しております!! とってもお得な内容となっているので、この機会にはあもにい倉敷のご利用をお待ちしております。見学・無料体験も随時実施しておりますので、お気軽にお越しください!!



はあもにい倉敷は医療法人創和会グループの健康増進施設です。

入職発令（令和3年4月1日付）

しげい病院

診療部門 内科部長 松岡 孝
糖尿病センター長

研究所附属病院

診療部門 小児科医長 河野 美奈

昇格発令（令和3年4月1日付）

しげい病院

診療部門 神経内科・リハビリテーション科部長 田中 義人
看護部 主任 吉本 裕美
看護部 主任 中尾 敦子
看護部 主任 岡川 雅美
看護部 副主任 水本 裕子
看護部 副主任 松尾 春美
看護部 副主任 小野 文巳
看護部 副主任 浅沼 典子
看護部 副主任 濱邊 早百合
検査健診部・輸血部 副主任 松本 純子
リハビリテーション部 主任 小坂 美江
栄養管理部 主任 古中 佳代

研究所附属病院

診療部門 診療部長 山本 直樹
看護部 主任 三頭 裕子
看護部 主任 竹田 範子
看護部 主任 梅田 康子
看護部 主任 山本 亜美
看護部 副主任 島田真祐巳
看護部 副主任 古市たまき
看護部 副主任 其輪 妙子
臨床検査部・輸血部 主任 大西 稔子
臨床検査部・輸血部 副主任 牧野 温子
栄養管理部 副室長 多田 仁美
事務部 課長 三浦 桂子
事務部 課長補佐 奥村 裕介

重井医学研究所

細胞制御部門 主任研究員 古家野孝行

創和会 本部

人事部 係長 山本かおり

■ ■ 確し物案内 ■ ■

重井薬用植物園

植物園を楽しむ会

「カラスとスズメの間を楽しむ」

日時：4月24日（土）10：00～12：00

会場：重井薬用植物園



医療法人 創和会

生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に

しげい病院

〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)3655 FAX086(421)1991

岡山しげい訪問看護ステーション

岡山しげい居宅介護支援事業所
〒710-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)4300 FAX086(282)4301

重井医学研究所附属病院

〒707-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)5311 FAX086(282)5345

倉敷しげい訪問看護ステーション

倉敷しげい居宅介護支援事業所
〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8111 FAX086(421)1991

重井薬用植物園

〒710-0007 倉敷市浅原20
TEL086(423)2396

重井医学研究所

〒707-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)3113 FAX086(282)3115

倉敷昆虫館

〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8207

お待たせいたしました！
第62回全日本病院学会 in 岡山
の演題募集が始まりました。

演題登録期間 4月1日（木）～5月10日（月）

奮って応募いただきますようお願いいたします。

詳しくは学会ホームページをご覧ください。

なお、事前参加登録期間は、4月20日（火）～6月30日（水）です。

編集後記

●自分が困った時やつらい時に助けられた経験や、かけられた言葉の数々は、私の心の中にずっと生きています。今でも自分が岐路に立たされた時に、思い出したり、勇気付けられたり、これからも私を支えていってくれる宝物です。“あの恩師や先輩方は、今も元気になっているのだろうか”とふと考えることがありました。春は出会いの季節。新しいメンバーも加わりました。同じ組織で働くこと、これも何かの縁。私たちはお互いに良い関係が築けるよう努力していきたいと思っています。どうぞよろしくをお願いいたします。（S F）

●先日、「ダンシング掃除」という言葉を知りました。掃除を音楽の時間内に終わらせる工夫を子供たちが考えて行うもので、音楽で時間管理をして楽しく、自発的に物事を行うシステムのことでした。現役教師の沼田晶弘先生が考案され、2017年頃からTV等で取り上げられていたようでした。ダンシング掃除に向いていると思う曲は、印象的なダンスシーンがあり、リズムのよい曲。しかも、サビにダンスの見せ場がありつつ、踊りやすい曲。この応用編で、着替えの時間に音楽をかけてこの音楽が流れたら「着替えの時間」と子供たちが自発的に着替えをスムーズにすることもできるそうです。“子供に時計の針が〇になるまでに、と伝えるよりも良い時間管理の方法かもしれない”と思い、自宅で実践してみました。効果は靚面！毎日、お風呂から出て裸で走り回っていた息子が曲の間に着替えようと必死です！彼の選んだ曲はダンス曲ではないのですが、「生きるをする」（タイの大冒険の主題歌）でした。勇者になるイメージで頑張っているそうです。“大人の時間管理にも使えるな！”と思い、自宅での時間管理に応用してみようと思っています。（I Y）

